

胎児期低腹圧疾患における出生時停留精巣の合併率とその因子に関する多施設共同研究についてのお知らせ

大阪大学小児外科では、関連施設との多施設共同研究として、以下の疫学調査研究を実施しています。

平成 27 年5月19日

【研究期間】

2015 年5月19日から、2016 年 12 月 31 日まで

【調査対象】

腹壁破裂、臍帯ヘルニア、先天性横隔膜ヘルニアと診断された男のお子様で、2005 年 4 月 1 日から 2014 年 3 月 31 日までの間に出生し、各原疾患の根治術を各施設で施行されたお子様。

【研究機関名】

大阪大学小児外科、大阪府立母子保健総合医療センター小児外科、大阪市立総合医療センター小児外科、近畿大学医学部小児外科、近畿大学奈良病院小児外科、兵庫医科大学小児外科、愛染橋病院外科、国立病院機構福山医療センター小児外科、大阪府立急性期総合医療センター小児外科、りんくう総合医療センター外科、東大阪市立総合医療センター小児外科

【目的】

本研究の目的は、大阪大学小児外科の関連施設で根治術を施行した腹壁破裂、臍帯ヘルニアおよび先天性横隔膜ヘルニアの症例について、出生時における停留精巣の頻度を調査し、腹圧と停留精巣との因果関係を調査するとともに、腹圧以外の停留精巣発生因子を検索することです。

【研究方法】

- 1) 過去 10 年間に当院小児外科および上記医療機関において診断や治療が行われた腹壁破裂、臍帯ヘルニアおよび先天性横隔膜ヘルニアの症例を対象として、多施設が共同して疫学研究を実施します。
- 2) 胎児期の経過、出生時の停留精巣の有無および在胎週数・体重・Apgar score、出生後の精巣の自然下降の有無や精巣固定術施行時期などに関する症例調査票を作成し、これを用いてカルテに記載された情報をもとに大阪大学小児外科データセンター(大阪)において結果の集計を行います。

3) データの集計結果から、胎児期低腹圧疾患における出生時停留精巣の頻度を調査するとともに、腹圧以外の停留精巣発生因子を検索します。

【意義】

本研究では、胎児期低腹圧疾患の出生時における停留精巣の頻度およびその経過が明らかになるため、出生前に胎児期低腹圧疾患とお子様が発症された場合には、ご両親に対して停留精巣の合併に関する適切な情報を提供することができるようになります。

【個人情報の扱い】

患者さん個人を特定できるような情報はデータセンターには送付いたしません。個人情報を含まない集計結果のみを国内外の学術集会・学術雑誌に公表することがあります。個人情報を含まない集計結果のみの公表のため、個人情報は保護されますのでご安心下さい。本研究は疫学研究であるため、情報を集計するにあたって必ずしも患者さん、あるいはご家族の同意を頂いておりません。もし、研究参加の撤回を希望される方がいらっしゃる場合は、下記当院研究責任者までご連絡下さい。

【本研究に関する問い合わせ先】

当院研究責任者：大阪大学小児成育外科・准教授 田附裕子

〒565-0087

大阪府吹田市山田丘2-2

大阪大学小児成育外科

電話：06-6879-3753 FAX：06-6879-3759